

科学技術社会論学会 ― 第22回年次研究大会・総会(2023年度)内
実行委員会記念シンポジウム

研究倫理審査をアップデートする：
ELSI / RRIを組み込んだ
技術開発・社会実装の作法

2023.12.9.SAT 13:30 - 15:30
オンライン開催 (YouTube Live での配信を予定)



科学技術社会論学会会員の 研究倫理審査に関する経験



大阪大学
「ワニ博士」
文学部の頃

小門 穂 (大阪大学大学院人文学研究科)

自己紹介

- 生命倫理、科学技術社会論：生殖技術と社会の研究
- 2023年4月から現所属（大阪大学人文学研究科）
- 2020～2022年度神戸薬科大学、2014～2019年度大阪大学大学院医学系研究科
- 研究倫理審査との関わり
 - 審査を受ける：卵子提供を受けた人を対象とするアンケート調査・インタビュー調査、卵子を提供した人を対象とするインタビュー調査、希少難病患者を対象とする診断未確定期の経験についてのアンケート調査など
 - 審査を行う：治験委員会／倫理審査委員会の委員
 - 2016年、生命倫理学会年次大会での経験

アンケート調査の概要

- ◎「2023年科学技術社会論学会：研究倫理審査に関する調査」
 - ◎実施期間：2023年10月24日～2023年11月8日
 - ◎対象者：科学技術社会論学会会員→67名が回答
 - ◎告知の方法：学会事務局に依頼し会員MLへ案内を送付、調査担当者から理事会MLへ案内を送付
 - ◎アンケート実施担当：科学技術社会論学会2023年度年次大会内実行委員会記念シンポジウム（岸本充生、小門穂、水町衣里、鈴木美香）
 - ◎倫理審査：大阪大学社会技術共創研究センター研究倫理委員会による
- ★本シンポジウムへの話題提供として、アンケート調査の結果について報告する

アンケート調査でお聞きしたこと

- 1.回答者と研究の関わり、倫理審査を受けた経験
- 2.倫理審査委員会との関わり、委員としての経験、所属機関の倫理審査委員会の審査の実施状況など
- 3.回答者の所属機関における立場

回答者の研究との関わり

①研究への関わり（回答者：67名）

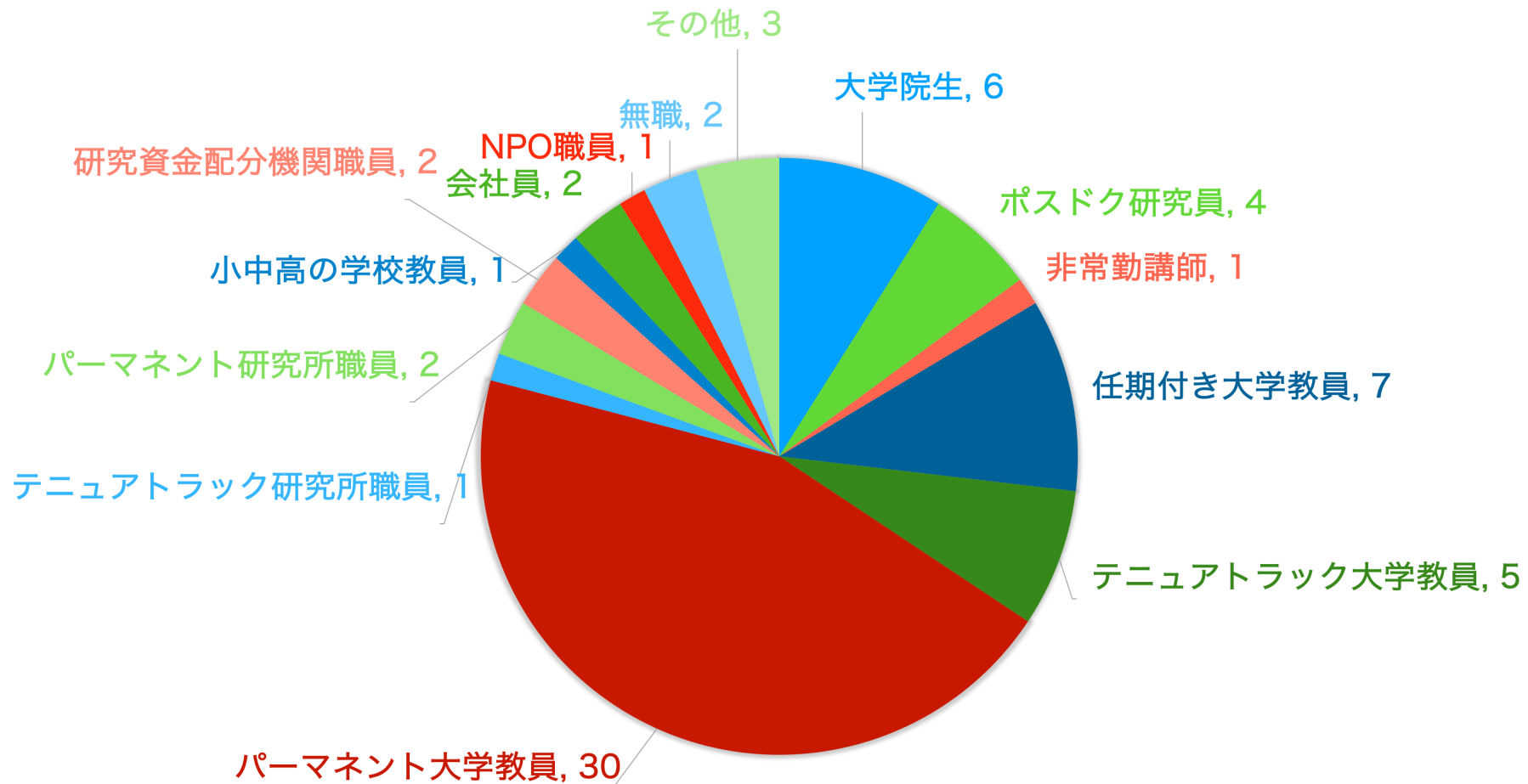
研究者として研究を実施	62名 (92.5%)
研究資金配分機関スタッフとして研究に関与	2名 (3.0%)
研究支援者として研究を支援	1名 (1.5%)
博士課程学生として研究を実施	1名 (1.5%)
研究に関わっていない	1名 (1.5%)

②研究領域（回答者：62名）

- STS, ELSI, RRI
- (科学) 社会学・政策
- 科学コミュニケーション
- 歴史 (科学史、技術史)
- 哲学・倫理、技術倫理、技術哲学、生命倫理
- 教育 (初年次教育、科学教育)
- 情報系 (図書館情報学、社会情報学)
- 心理学
- 環境、都市計画
- 医学、物理学、エネルギー・原子力など

回答者の現在の立場

②現在の立場（回答者：67名）



人を対象とする研究と倫理審査の経験

④ 人対象研究の実施経験（回答者：67名）

過去5年以内に実施	46名
5年より前に実施経験あり、現在は行っていない	7名
これまで行っていない	13名
その他	1名

⑤ 倫理審査の経験（回答者：53名）

毎回受けている	26名
受けていなかったが最近では受けている	11名
受けていない	11名
わからない	1名
その他	4名

倫理審査を受けない理由

⑤倫理審査の経験（回答者：53名）

毎回受けている	26名
受けていなかったが最近では受けている	11名
受けていない	11名
わからない	1名
その他	4名

⑥受けない理由（回答者：14名） 自由記載

- ◎必要がないと考えている
 - 学会で必須でなかった
 - 問題とされなかった
- ◎制度・委員会がない
- ◎どう受けるのかわからない

受ける場合の倫理審査委員会の属性

⑤倫理審査の経験（回答者：53名）

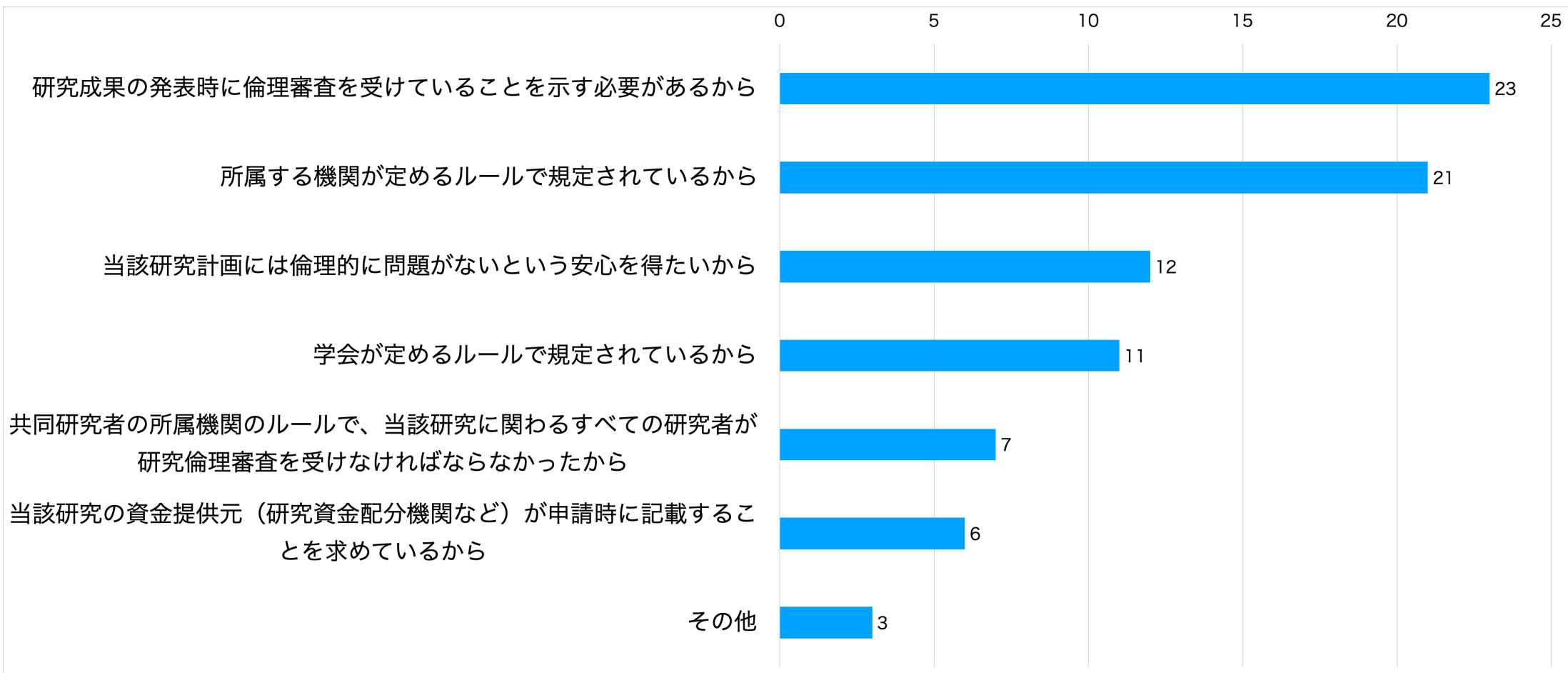
毎回受けている	26名
受けていなかったが最近受けている	11名
受けていない	11名
わからない	1名
その他	4名

⑦委員会の属性（回答者：38名） 複

研究責任者の所属先に設置されている委員会	36名
研究分担者の所属先に設置されている委員会	16名

倫理審査を依頼した理由

⑧倫理審査を依頼した理由（回答者：38名）複



研究倫理審査の受けやすさ：否定的な回答が多い

⑨倫理審査は受けやすいか（回答者：37名）

⑩理由（回答者：18名）自由記述

受けやすいと思う	15名
受けやすいと思わない	19名
わからない	1名
その他	2名

- 手続きが煩雑、準備が大変
- 委員会での審査が長い、開催頻度が低く、承認までに時間がかかる
- 効果が不明確
- 医学系を含む自然科学系の研究を想定した様式で、自分の研究・調査方法とあっていないことまで要求される
- 委員会側にも申請者側にも知識がない

研究倫理審査の受けやすさ

⑨倫理審査は受けやすいか（回答者：37名）

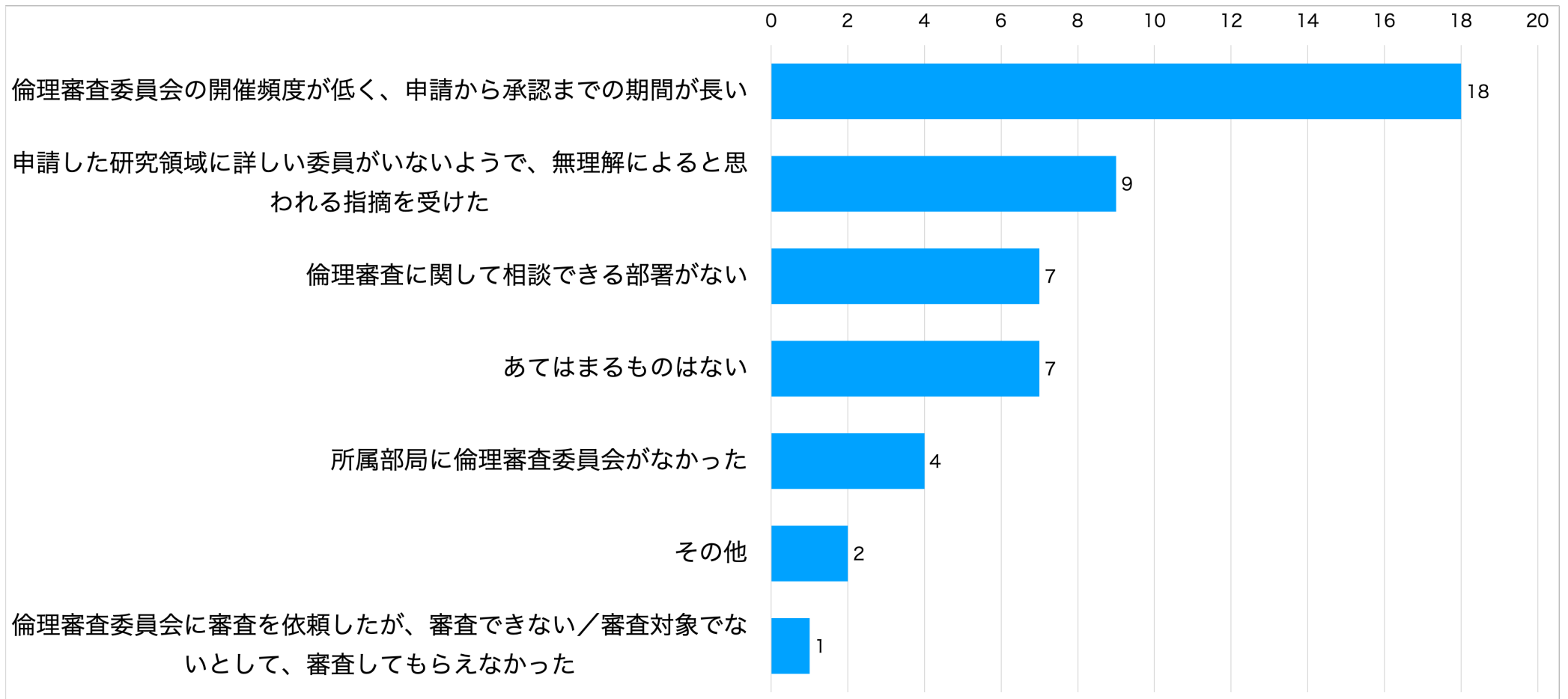
⑩理由（回答者：15名）自由記述

受けやすいと思う	15名
受けやすいと思わない	19名
わからない	1名
その他	2名

- フォーマット・見本がある、申請先が明示されている
- 手続きがシンプル、迅速
- 相談できる
- アンケート調査を想定した手続きが可能
- 修正すべき点の指摘が的確

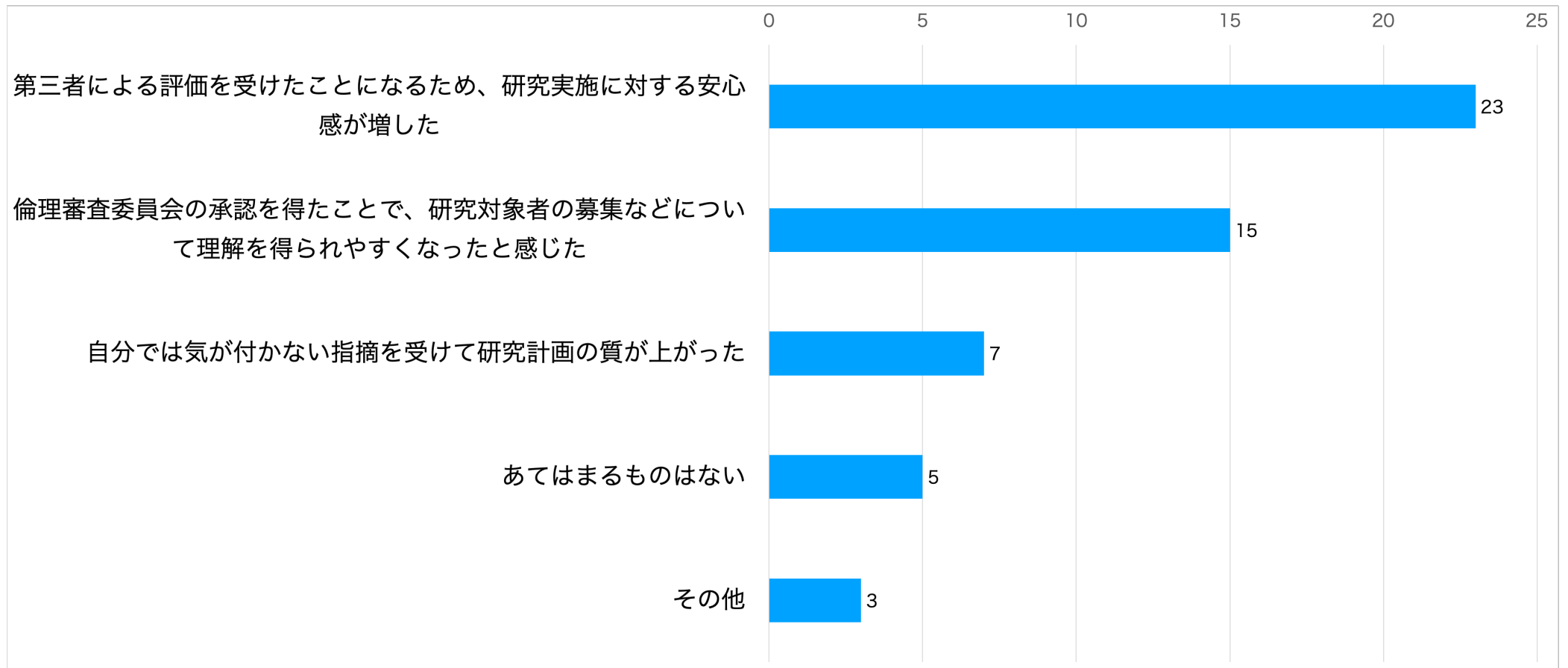
期待に反する経験

⑪倫理審査に関して、期待に反する経験（回答者：34名） 複



メリットを感じた経験

⑫倫理審査に関して、メリットを感じた経験（回答者：37名） 複



倫理審査は不要な研究はあるか

⑬現在では必要だが、倫理審査の不要な研究はあるか（回答者：45名）自由記述

- 特になし、倫理審査は必要：国際誌への投稿、研究の成果が社会・コミュニティ・個人へ与えうる（将来を含めた）影響、被験者の立場に立つ確認作業の必要性
- ある：個人情報を取得しない・回答を強制しないアンケート調査
- ある：実施過程で変わりうる研究：スノーボールサンプリングを用いるなどの人文社会科学系の質的調査、人類学などのフィールドワークなど同意取得が調査を阻害するような研究
- 研究者自身の倫理教育の徹底が不可欠
- 医学系と同等のレベルが求められるのは適切ではない

研究倫理審査の課題、克服するための取り組み

⑭（回答者：52名）自由記述

- 形式を整えればよいという形骸化への懸念
- 手続きに要する時間、書類作成等の労力が大きい、オンライン・英語非対応、学生の研究への対応が困難
- 委員への負担の集中
- 小規模大学の困難→第三者機関の創設
- アカデミアへの偏り→在野研究者が審査を受けにくい、議論の場を開くべき
- 人文社会化学系の研究になじまない制度
- 審査の厳しさのばらつき→ゆるい国・機関でよりチャレンジングな研究を実施？

成果発表や研究成果活用におけるELSI課題

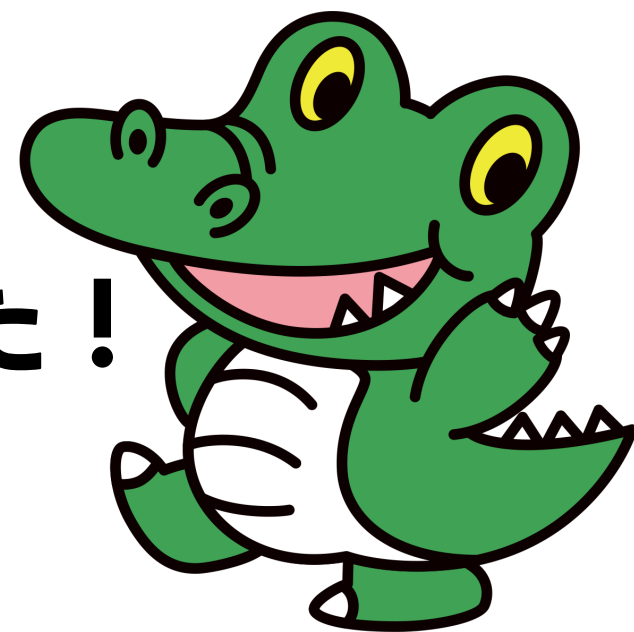
⑮（回答者：40名）自由記述

- 研究から社会実装までを含め、社会への影響を検討する必要、ガイドラインが必要
- ステークホルダーが増えることの問題
- アカデミア以外のステークホルダーの関わり方
- プライバシーへの懸念
- ELSI専門家の影響力が高まっているが、行動規範や倫理規定の検討が不十分
- 研究成果公表後の活用のされ方の管理は可能か

まとめ

- 研究倫理審査の経験：67人のうち53人が人対象研究の経験、37名が倫理審査を受けた経験
- 研究倫理審査を受けるさまざまな課題：開催頻度、内容と委員がマッチしない
- 非医学系の研究の幅広さ⇔医学系の被験者保護に基づくやりかた
- しくみが整っていると受けやすい
- 今後へ向けて：ELSI専門家の関わり

ご清聴ありがとうございました！



大阪大学
「ワニ博士」